

授業概要

高等学校国語科が求めている各領域の指導事項を基礎的・基本的な内容として生徒が確実に習得していくための教育法を確立するとともに具体的な方法を講じて授業展開をしていく。

特に、新学習指導要領として「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」や「言語文化」等を中学校との系統性を理解して、言語活動例を生かしていく手立てを講じる必要がある。

授業では、高等学校段階として求められている国語科の能力において具体的教材を通して授業改善につなげていく方策を探るようにする。さらに、情報通信技術の導入を踏まえた授業設計の方法も指導する。

授業計画

第 1 回	高等学校教材で身につけるべきこと・詩教材にける教材分析法の応用
第 2 回	「読むこと」に関する学習指導・文学教材に関する教材分析と授業設計
第 3 回	「読むこと」に関する学習指導・説明文教材に関する教材分析と授業設計
第 4 回	「読むこと」に関する学習指導・古文教材に関する教材分析と授業設計・ICT の活用
第 5 回	「読むこと」に関する学習指導・漢文教材に関する教材分析と授業設計・ICT の活用
第 6 回	学習指導案の書き方・模擬授業計画・教材文の読み込み・分析の交流
第 7 回	「書くこと」に関する学習指導・豊かな活動で書く力を伸ばす
第 8 回	「話すこと、聞くこと」に関する学習指導・対話力を高める交流場面の展開
第 9 回	高等学校国語科模擬授業実践(1) ・受講生による模擬授業 ・授業に対する意見交流と評価
第 10 回	高等学校国語科模擬授業実践(2) ・受講生による模擬授業 ・授業に対する意見交換と評価
第 11 回	高等学校国語科模擬授業実践(3) ・受講生による模擬授業 ・授業に対する意見交流と評価
第 12 回	高等学校国語科模擬授業実践(4) ・受講生による模擬授業 ・授業に対する意見交換と評価
第 13 回	高等学校国語科模擬授業実践(5) ・受講生による模擬授業・授業評価・意見交流を指導する
第 14 回	高等学校国語科模擬授業実践(6) ・受講生による模擬授業・授業評価・意見交流を指導する
第 15 回	国語科教育法Ⅱを振り返る ・授業の見方と評価 ・授業改善の方向性を指導する
第 16 回	レポート提出 まとめ

到達目標

高等学校の国語科として身につけなければならない能力を具体的な授業設計を通して実践し、板書の完成図を含めて、模擬授業の学習指導案の本時案作成を確かなものに行うことができる。コミュニケーション能力を育成する観点から、より豊かな言語活動の創造を目指す。

履修上の注意

高等学校で求められている能力は、各領域ともに「伝える力」であり「生きる力」である。したがって、生徒の力量を高めていくための手立てとして授業力ある教師の存在が不可欠となる。日頃から、国語科の教師となるという意識をもって授業に臨んでほしい。なお、履修にあたっては、国語科教育法Ⅰを履修し終えていること。模擬授業を増やし、実践力をつける。

予習・復習

- ・予習、復習をして各領域の基礎的・基本的な内容を理解して、教材研究の日常化を図ること
- ・ノート整理をして学びの習慣化を図ること
- ・身近な問題に関心をもって物事に対処できる自分づくりをしておくこと

評価方法

授業内の学習活動(30%)及び、授業内での提出物および模擬授業学習指導案の作成(30%)、授業の達成目標の達成度を課題レポート(40%)で評価する。

テキスト

- ・教科書名：『高等学校学習指導要領解説書国語編』（文部科学省）
- ・著者名：文部科学省
- ・出版社名：東洋館出版社
- ・出版年（ISBN）：978-4-491-03640-3